

2018 IFA レポート

編集委員／パナソニック株式会社

春井 正徳（編集）

今年もドイツ・ベルリンで開催された IFA (Internationale Funkausstellung / 国際コンシューマ・エレクトロニクス展) の様子を、弊社からの出張者のレポートを取りまとめて報告する。筆者自身は現地へは行っていないので、見てきたようなレポートになっている点をご容赦願いたい。

IFA は 1924 年から開催されている世界最大級のコンシューマ・エレクトロニクス (CE) とホーム・アプライアンスの見本市で、今年からは自動車関連の展示も始まった。会場はメッセベルリンが定番となっている。今年は、8 月 29 日(水)～30 日(木)のプレス向けのイベントを皮切りに、8 月 31 日(金)～9 月 5 日(水)の一般公開と、主催者発表によれば展示面積 161,200 m² (昨年実績 150,000 m²)、出展者数 1,814 (同 1,645)、ビジター総数 245,000 人 (同 245,000 人)の規模で、大盛況であった。もちろんこれらの数字は展示会全体の数字で、オーディオ製品はその一部を占めるのみではあるが、それでも人気のオーディオ製品の前には人だかりが消えず、熱気に包まれていた。そんなオーディオ製品を中心に各社の展示の様子を紹介していく。



まずは全体の印象として、
・ AI (スマートスピーカー)

各社、Google Assistant、Amazon Alexa 対応が一気に増え、最早当たり前の機能になっている。Google は各社に統一された自社ユニフォームの説明員を配してファミリー感を訴求していた。

・ ディスプレイは 8K

HD、4K の導入期同様、各社静止画主体の解像度デモ。その中で Sharp が NHK 作成のねぶた祭りの動画を見せていたのが印象的。かつてのような動きによる“酔い”も少なく、コンテンツ制作側の進歩も見て取れた。

・ 撤退 & 拡充

かつて大きなブースを持っていた ONKYO・Pioneer や Gamut、Kanton といった老舗メーカーのブースがなかった。その分 YAMAHA がブース拡大。iFI などの新興メーカーもブース拡充しているのが印象に残った。



次に主要各社の展示会の様子について報告する

■ ソニー

オーディオはモバイルとスマート SP をメインで展示している中、超弩級デジタルオーディオプレーヤーDMP-Z1 やフラグシップイヤホン IER-Z1R を発表展示。

ヘッドホンは、スマート化を特に訴求していて、WH-1000X などの主力機は Google Assistant は既にサポート済み、Amazon Alexa はファームウェアのアップデートで対応予定、とのこと。



IER-Z1R: 据え置きアンプに匹敵するサイズのアンプブロックに、同社ワークマンに準じる液晶ディスプレイと UI を組み込んでいる



DMP-Z1: 欧州発表は初となるフラグシップイヤホン。マグネシウム製インナーハウジングに 2 ダイナミックドライバー、1BA を組み込んでいる。欧州での販売価格は 2,200 ユーロ前後を予定



WH-1000XM3: NC ワイヤレスヘッドホン新モデル。デモの場所が多数設置されていた。Google Assistant 機能搭載。価格は 380 ユーロを予定。



Music in the Water: 3 面に波の風景をプロジェクターで映した部屋で波の音を流し、ワイヤレスインナーホン WF-SP900 を装着しての試聴。

■ シャープ

会場も大きく、TV とは完全に別ブースで各オーディオ製品がフルラインナップとっていいほど数多く展示されていた。デモや視聴がほとんどできないのが少々残念。



プレスカンファレンスで発表されていた Dolby Atmos 対応で 3.1.2ch の新商品 8A-C31AX1 と、5.1.2ch の同じく新商品 HT-SBW800 の 2 機種が展示。その他のサウンドバーとは独立して展示されていた。



最長 14 時間再生可能なパーティースピーカー PS-940 (左)



カラフルなデザインが特長なBluetoothスピーカーの GX シリーズ

■ ヤマハ

今年オーディオメーカーブースで特に目立っていた印象。昨年に比べて面積を広げて楽器なども展示していたが、中でも広く面積を使って訴求していたのが YAMAHA 独自のワイヤレスネットワーク機能 MusicCast。対応のアナログプレーヤー(参考出品)は、Ether もしくは Wi-Fi で MusicCast に接続でき、かつ、そのアナログプレーヤーはアナログ入力端子を持ち、他のオーディオ機器のライン出力を繋ぐとプレーヤー経由で MusicCast に飛ばせる。タブレットで操作しながらフルマニュアルのレコードプレーヤーというのもアンバランス。

ハイエンド系では GT-5000、C-5000、M-5000 の新製品群を展示。



MusicCast を中心にレイアウト、周りをサウンドデモコーナーで囲んでいる



参考出品のアナログプレーヤーの後面



MusicCast BAR 400 : DTS Virtual:X や Dolby Vision にも対応。デモコーナーで多くの注目を集めていた。



ハイエンド系では GT-5000、C-5000、M-5000 の新製品群を展示。

■audio-technica

昨年まではプレーヤーラインアップ展示がメインだったが、今年は完全ワイヤレスのイヤホン ATH-CKR7TW、ATH-SPORT7TW が登場。今回同社で最も注目を集めていた。廉価版の新 VM カートリッジラインアップ VM-95 シリーズの新製品も発表された。下位モデル（丸針）は中国製だがラインコンタクト、シバタ針は国内（福井）製とのこと。



ATH-CKR7TW：音質を高めるため、11mm と大型のドライバーを採用。振動板には DLC コーティングも施している。イヤホン上部に物理ボタンを備えており、音量調節などが可能。ケースとイヤホンはマグネットで吸着する仕組みになっている。249 ユーロ程度で年内の発売とアナウンス。



ATH-SPORT7TW：スポーツ向けの完全ワイヤレスイヤホン。欧州では年内をめどに、199 ユーロ前後で発売する。本体色はブラックとグレー。IPX5 相当の防水性能を備える。



香港ハイエンド AV ショーに出展された、全世界 500 台限定という密閉型ヘッドホンのハイエンドモデル ATH-L5000 も展示。欧州での販売価格は 4200 ユーロとアナウンスされていた。



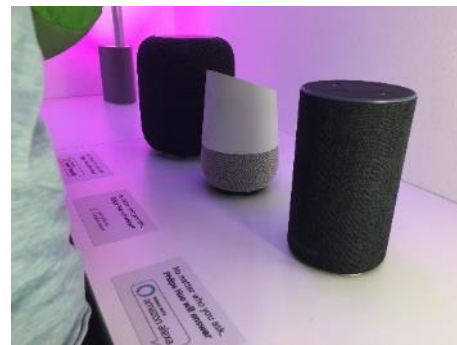
新 VM カートリッジ VM-95 シリーズ

■PHILIPS

HAV コーナーは設けておらず、OLED TV に搭載している Bowers & Wilkins 製スピーカーのサウンドデモを行うのみだった。HUE Light コーナーでは新たなラインナップが紹介され、引き続きボイスコントロール操作も訴求されていた。



Bowers & Wilkins speaker 製の OLED TV 「903」。会場ではサウンドを体感できるデモコーナーも設けられていた。



Google Assistant, Amazon Alexa, Apple Homekit との対応をアピール。
スマートスピーカーも設置し、照明との連携を訴求していた。

■JVC

会場の中心では多数のマネキンを用いてスポーツ性を訴求したヘッドホン・イヤホンが注目を浴びていた。



スポーツ訴求の HA ヘッドホン・イヤホンシリーズ。QR コードは商品サイトヘリンク

■SAMSUNG

かつての Galaxy 大量展示が少し影を潜め、フリースペース確保しゆったりした展示になっていた。HAV コーナーはサウンドバーのみの展示となっており、全体からのボリュームとしては去年から縮小されていた。

Harman/Kardon との共同開発をおこなった新商品 HW-N950 がオーディオとしての目玉。デモブースも設けられ Dolby Atmos のデモを実施。多くの来場者で賑わっていた。他のサウンドバーは、HW-N950 との ch 比較や TV とのデザインマッチング訴求として展示されていた。

Galaxy コーナーでは傘下である AKG のヘッドホン、イヤホンが多数展示されており、Galaxy を使用した視聴をおこなっていた。



多くの人でにぎわっていた
HW-N950 のデモコーナー



左から HW-N650 / HW-MS650 /
HW-N400



Galaxy コーナーで視聴できる AKG の Headphone & Earphone

■LG

入り口すぐのカーブの OLED マス展示は健在。家電メーカーで一番“AI”を訴求しており、ロボットの展示も多い。

すでに発売されている XBOOM の特別コーナーが設置され、各種ラインナップを体感できる。(新商品はなしとのこと)

ヘッドホン/イヤホンでは 新商品の LG TONE Platinum SE は Google Assistant 搭載をアナウンス。



MERIDIAN テクノロジー搭載の
XBOOM PK シリーズ



PK シリーズの最上位モデル PK7
(40W)



Google Assistant 搭載で高音&低音どちらも補強する Hybrid BA speaker unit も搭載



スーパーマーケット向けお買い物
ガイドロボット

■beyerdynamic

これまで使用してきた伝統的なブランドロゴに加え、新たにアルファベットの「Y」をモチーフにした“モダンでスマートな”ブランドロゴを公開。

同社初となる NC 搭載のヘッドホン LAGOON ANC には来場者の注目が集まっていた。

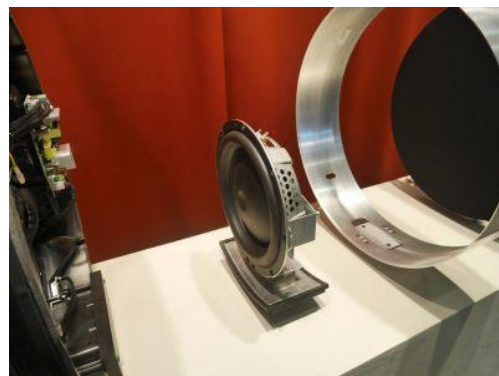


イヤープッド内側に LED を搭載し、BT の接続状況やバッテリー残量などを光でアナウンスしてくれる NC Bluetooth ヘッドホン。欧州では年末発売を予定。

■BANG & OLUFSEN

円形でアルミ製のエッジがあしらわれたスピーカー Beosound Edge が今回同社で最も注目度の高い製品。来場者の多くもこの製品を目当てが多い様子だった。

Beosound Edge はベースポートをアクティブに動かせる世界で初めての製品とアピール。ボリュームコントロールがユニークで、左右に倒す（少し転がす）と、それを検知してボリュームを UP/DOWN し、手を離すとボリューム値は保持」されたまま、起き上がりこぼしの様に正立に戻る。またウーハーの前にシャッターがついていて、ボリュームに合わせて開閉される。



ユニットは 10 インチのデュアルコイルウーファーが 1 基、4 インチのミッドレンジが 2 基、3/4 インチのトゥイーターが 2 基。分解モデルの展示もあった。

■SENNHEISER

ゼンハイザー初の完全ワイヤレスイヤホン MOMENTUM True Wireless を展示。多くの注目を集めていた。立体音響技術「AMBEO（アンビオ）」を搭載した初の 5.1.4ch サラウンドシアターバー-AMBEO Soundbar も展示。来年発売予定とのこと。



MOMENTUM True Wireless



AMBEO Soundbar

■Marshall

マーシャルから Google / Alexa 対応スマートスピーカー登場。機種としては ACTON II VOICE と STANMORE II VOICE の 2 つだが、音声アシスタント毎に分けての発売（外観はほぼ同じ）。



Google Assistant 対応モデル

■harman / kardon

Google アシスタント搭載の Harman Kardon Citation シリーズを発表。
スマートスピーカー、サウンドバー、タワー型スピーカーなど多彩なラインナップを展開。



Chromecast built-in 搭載の
Citation 500



出力 200Wx2 の Citation Tower

■ muse

ハイパワーオーディオ群をブースの最前列で紹介していた、ラインナップは M-1985 DJ / M-1950 DJ / M-1920 DJ / M-1915 DJ となっている。



左上 M-1950 DJ は最大 300W



手前 M-1985 DJ は最大 800W

■ Hisense

オーディオ単体での展示はなかったものの、紹介されていた TV の大半にサウンドバーをセットで展示していた。



Doby Atmos 対応の HS512



Dolby Digital/DTS code 対応の HS215

■ HUAWEI

Huawei から初となる Alexa/4G 対応のスマートスピーカー「AI Cube」を発表。スマートスピーカーとして使うだけでなく、家庭内の Wi-Fi ルーター（802.11ac）としても使用可能。



4G 回線と Amazon Alexa に対応した” AI Cube”。底面に SIM カードを挿して使用

■ANKER

Anker Soundcore シリーズを多数展示。Google Assistant 搭載の Model Zero が注目を浴びていた。その他 Alexa 対応の 360° スマートスピーカー Anker Soundcore Flare S+などを展示。



Flare/Flare+/Flare S+シリーズ



Dolby Audio 対応の Model Zero

■TCL

TCL も Hisense のようにオーディオ単体での展示はなかったもののサウンドバーやTV 付属のスピーカーで音質を訴求。Harman/Kardon や ONKYO などと協業した TV は、音質だけでなくデザイン性の高さもアピールしていた。



7.1.4ch で Dolby Atmos にも対応した
Harman/Kardon 製のサウンドバー



QLED TV「X8」に搭載された
ONKYO のスピーカー

■iFI

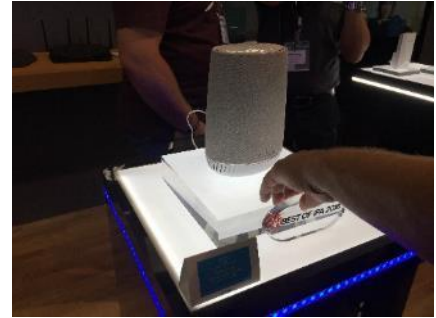
英国のハイエンドの iFi も徐々に存在感を高めてきており、新製品の木製エンクロージャの一体型や、従来から高評価のポータブルアンプ、DAC、電源アクセサリ等を展示。



[スマートスピーカー]

■NETGEAR

Amazon Alexa ビルトインのスマートスピーカー「orbi voice」が登場。音質にもこだわり、Harman / Kardon のオーディオシステムを搭載している。2018 年 10 月から 430 ドルで販売開始。



■LIBRATONE

Alexa 対応のスマートスピーカー ZIPP 2、ZIPP 2 MINI を発表。AirPlay 2 にも対応予定で、Siri や HomeKit とも統合できるカラバリは 4 色展開。北欧らしいポップなデザインも特長の一つ



■KS

イギリスのオーディオメーカー Kitsound では Amazon Alexa 対応のスマートスピーカー Voice One Smart Speaker を展示。ワイヤレスで最大 8 台の Voice One と接続可能。すでに 129 ユーロで販売されている。バスレフやデュアルドライバー搭載など、音質にこだわった仕様になっている。



■logitech

ULTIMATE EARS (UE) の新 Bluetooth スピーカー BOOM 3、MEGABOOM 3 の 2 機種を新発表。どちらもスポーティなスタイルを訴求。カラビナなどを通すためのホールを設置



[完全ワイヤレス]

■RHA

世界初ワイヤレス平面駆動イヤホン CL2 Planar を発表。サイズわずか 10mm の平面駆動型ドライバーを搭載しており、他社の完全ワイヤレスと比べかなり小さいのも特長の一つ。ハウジング筐体には、ジルコニアを採用。ワイヤードイヤホンとしても使用可能。



■Jabra

デンマークのオーディオメーカーである Jabra から新たに Amazon Alexa 対応の完全ワイヤレスイヤホン Elite65t を展示。



■eoz

2016 年にスペインのバルセロナ市で創業したブランド eoz。

air シリーズから、完全ワイヤレスイヤホンが新登場。8mm のナノコーティングされたスピーカーが特長の一つ。来月発売予定。価格は 150 ドル、日本での発売は未定とのこと



■EARIN

M-2 の Google アシスタント対応モデルを発表。Google アシスタントの起動はタッチ操作で行うことができ、音声検索や Google カレンダーへの予定追加なども可能。わずか 4g の軽量小型ボディが特長の一つ。

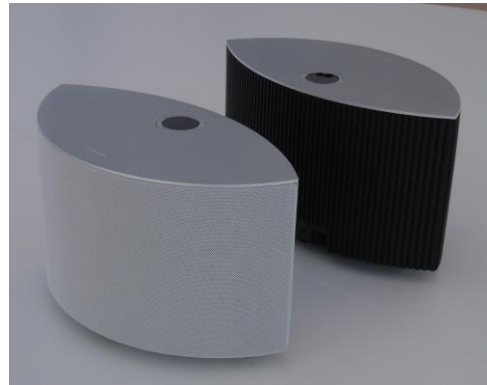


■Panasonic / Technics

オーディオ関連は Technics と Panasonic のホーム AV に分けて展示。Technics コーナーでは Panasonic としては初となる SACD 再生に対応したマルチデジタルプレーヤーのプロトタイプを出展。DSD ネイティブ再生が可能で、Wi-Fi を内蔵し、AirPlay、Chromecast built-In や各種の音楽ストリーミング再生にも対応する。ワイヤレススピーカーシステムの新製品 OTTAVA S SC-C50 は 3 組の同軸ホーンユニットとサブウーハーをフルデジタルアンプで駆動し、内蔵マイクにより設置した場所に合わせた最適な音質に調整する機能を有している。



上段が SACD 再生に対応したマルチデジタルプレーヤーのプロトタイプ



OTTAVA S SC-C50



SL-1000R をはじめとするアナログプレーヤーの展示



ホーム AV コーナーのブルートゥーススピーカー、ヘッドホン、DAB ラジオの展示

■執筆者プロフィール

春井 正徳（はるい まさのり）

1960 年生まれ。1983 年京都大学卒。

同年松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）入社。

CD プレーヤー用 IC、1 ビット DAC、デジタルオーディオ信号処理の開発等に従事。

現在は製品環境法令担当。